

桜の聖母短期大学
親と子の広場

小さなクラスの

さくらっこだより

火・金曜日

10月号

いよいよ小さいクラスのさくらっこが、火曜日・金曜日に始まりました。私たちスタッフは、“さくらっこ”をどんな場にしたいか話し合ったり、新しいおもちゃを買い揃えたり、わくわくどきどき準備を進めてきました。私たちの思いをリーフレットにまとめましたので、是非ご覧ください。

さて、月1回のこのお便りでは、さくらっこの中で読んだ絵本の紹介や遊び歌の歌詞などを紹介したいと思います。お子さんが興味を持ってくれたら、是非その後、ご家庭でも楽しんでいただきたいからです。

また、さくらっこでの子ども達の様子も載せていきたいと思います。

これから、おうちの方と短大スタッフと共に“小さなクラスのさくらっこ”をあたたくくつろげる場にしていきたいと思います。さくらっこは、『みんなでみんなの子どもと一緒に育てる場』です。みんなであたたくく子どもを見守っていきましょう。そして、子育て中の自分もいたわり、ほっと一息つきましょう。

これから、どうぞよろしく願いいたします。

10月のテーマ

秋の空って気持ちいい！

高く澄んだ青空が気持ちいい季節。

さくらっこでは、大きなシーツを雲に見立て、みんなで乗って揺らしたり、空の上を飛んだりしましょう。大きなシーツにおうちの人と一緒にかくれて「しー」「みーつけた！」も楽しみましょう。

木のおもちゃ

音や感触を楽しめるよう、木のおもちゃをご用意しました。いくつかご紹介します。



●カラコロツリー●

玉がカラフルな木を転がる音はどんな音でしょう？



●ひっつきむしの木●

穴の中に何かがかくれているよ。みつけてつかまえよう！

絵本のか



絵本には、大きな力があるってご存知でしたか？

かわいいだけが絵本ではありません。

子どもは、大好きな人に絵本を読んでもらうことで、自分は愛されていると実感します。大好きな人に触れながら大好きな人の声で読んでもらうのが一番です。愛されていると実感できた子どもは、やる気に満ちてきます。つまり意欲が育つのです。

それから、絵本のストーリーの中に入って疑似体験をします。登場人物の気持ちに自分を重ねてみたり、体験を積み重ねることで、「こんな人になりたい！」と憧れを抱いたり、思考力や感性も育っていきます。

そして、絵本の絵は、子どもが初めて出会う美術です。子どもは、絵を目で読み、耳からストーリーを聞き、絵本の世界を楽しみます。できるだけ良い絵本を選んであげたいものです。

字が読める年齢になっても、絵本は自分で読むものではなく、読んでもらうものです。10歳までは、絵本を読んであげましょう。学校の成績もぐんぐん上昇間違いなしです！

親子の触れ合い

日常生活の中で、おむつを替えるとき、顔を洗ってあげるとき、やさしい歌を口ずさみながらやさしく触れてあげると、子どもにとっても親にとっても心地よいこと。愛情を込めてたくさんスキンシップを取った親子は、親離れも早く、子離れも早いそうです。今、この感触を味わいましょう。

こんな素敵な時間も子どもが小さな今だけです